

## 平成 28 年度 事業報告

# 社会福祉法人 音更晩成園

平成 28 年度は、神奈川県津久井やまゆり園で発生した利用者への殺傷事件や、北海道や東北地方を襲った台風に伴う豪雨による甚大な被害など、未曾有の事件と災害に象徴される 1 年であった。

津久井やまゆり園事件では、元職員の犯行により 19 名の利用者の尊い命が奪われるとともに 27 名が受傷するといった非常に痛ましい事件となったが、これにより『開放的で風通しの良いオープンな施設づくり』と『社会福祉施設の安全管理体制』の両立について、改めて考えさせられる機会ともなった。現在、事件の現場となったやまゆり園の建替えについて様々な議論がなされており、注目されているところでもある。

また、北海道に相次いだ台風の上陸や接近に伴う記録的な大雨による川の氾濫等により、北海道知的障がい福祉協会会員施設の複数が被災し、道北地方の施設においては建物の被害のほか就労系作業設備の冠水等、機能が一時麻痺するといった甚大な被害を被ったところもあり、道路などのライフラインがいまだ一部復旧されていない箇所もある。

当法人においてもグループホーム 1 棟が床上浸水、1 棟が床下浸水の被害を受け数日間避難を余儀なくされるといった事もあったが、幸い迅速な対応（緑陽荘への緊急避難等を図るなど）により利用者や入居者への被害はなく、また、家族とともに地域生活を送る障がい者も緊急に受け入れる等、入所施設の機能を発揮する機会にもなったが、グループホームにおける緊急時の態勢の在り方についての課題も浮き彫りとなった。

これら事件・自然災害への対応に関しては、施設における安全管理体制に関する講習や設備改善のポイント、水害・土砂災害への備えに関する説明会等に参加し、かつ状況に応じ、改善を図ってきたところである。

一方、社会福祉法改正による社会福祉法人制度改革への対応として、定款変更、新定款に基づく理事会・評議員会の役割の明文化、社会福祉充実計画の策定等を進めてきた。

この他、晩成学園・緑陽荘の改築に関する整備計画については、法人内部での検討委員会での協議と並行して、十勝総合振興局や音更町等の行政機関にも相談・協力を仰ぎながら進めてきた。

なお、その他主な実施項目は以下のとおりだが、詳細については各施設・事業所の報告を参照されたい。

社会保険労務士行政書士事務所との顧問契約

- ・就業規則の見直し（改正）等労務管理の強化

税理士法人会計事務所との顧問契約

- ・デイセンターの就労継続 B 型事業における消費税への対応、税務処理の相談

職員処遇と人材確保と定着

- ・正規職員への登用
- ・エルダー制度の充実
- ・資質向上及び意識改革を目的とした内外研修への積極的な参加と開催
- ・共済法改正（障害者施設への公費助成の廃止）への対応

社会貢献に向けた取り組み

- ・小学校における総合学習（ソーセージづくり体験）
- ・花咲ける郷環境整備への協力
- ・地域協議会（仮称）の招集と開催

## 晩成学園 事業報告

平成28年度は、福祉関係者が一体となって目指すべき「福祉社会」を共に考え、個々の利用者が地域社会の一員として自立した日常生活を営むことを実現していくために各分野の福祉現場の活動、実践から、制度上の支援課題はもとより、制度の狭間にある方や支援につながりづらい方たちへの支援と現状課題を明らかにしながら、必要な取り組みを共に考え、研修会や会議を通じ情報共有を行い、課題解決に向けた支援サービスを展開してきました。当施設に於いても利用者の重度・高齢化が急速に進む中、現状の設備での対応が年々難しくなってきたり、施設改築に向けた動きも本格化してきました。

権利擁護については、権利擁護・虐待防止部会が中心となり、権利擁護と虐待防止に向けた自己チェックや施設内研修を行い、利用者一人一人の意思の尊重と自己決定を重視し、安心して施設利用が出来る環境を考えつつ充実した支援サービスに繋がるよう、支援スタッフ一同が常に意識しながら、利用者主体、権利擁護を遵守してきました。今後もより質の高い支援サービスの提供に取り組みたいと考えますが、全国的に福祉現場における人材不足についても重要な課題と考え、職員が長く勤めてもらえるよう、職場の風通しの良い環境作りや、スタッフ相互のコミュニケーションの充実を図ると共に、スタッフの福祉サービスの専門性の育成に努め、働きやすい事業所となるよう取り組みたいと考えています。

新年度についても、複雑化・深刻化する福祉ニーズの現状を共有し、福祉現場が直面する課題解決に必要な取り組みを分野や立場を超えて考え、関係者の意見交換を通じて公私協働による、さらなる連携が図られるよう努力していきたいと思っております。

### □支援体制の充実

- ・利用者の重度・高齢化、障がいの多様化に応え、強度行動障がい者の個々の行動に合わせた支援計画の作成と記録整備の実施
- ・個別のニーズに合わせた個別支援計画の作成とモニタリングの実施(年2回)
- ・特定相談支援事業所として利用者・保護者のニーズに合わせた「サービス等利用計画案」や「サービス等利用計画」の作成とモニタリングの実施
- ・特定相談支援事業所として計画相談に重点を置いた人員を1名配置し、相談支援研修会等への定期的な参加を通して専門性の向上に努める
- ・具体的な計画作成の為に、週間カリキュラム会議(毎週)、月間カリキュラム会議(毎月)の実施
- ・日常的に起こるヒヤリ・ハットを再検証し未然の事故防止対策としての検討会議を実施

### □日中活動の充実

- ・重度・高齢化に伴い機能維持を目的とした機能訓練やリハビリ的活動の実施  
個々の身体状況や症状に配慮しながら、残存機能の維持回復を図る為の健康予防体操・リハビリ体操・便秘予防体操・嚥下体操・マッサージの往診・手足のマッサージ・フットバス等を実施
- ・絵画・壁面作りの創作活動の実践を元に、「みんなあーと」への作品出展
- ・ウォーキング・ビデオ体操・軽運動、レクリエーションの実施
- ・サークル活動の実施(創作活動や軽運動等、利用者のニーズに合わせたプランで実施)
- ・余暇支援開始(7/9～2/12) 計15プラン、23回実施
- ・道内・外への小グループによる旅行の実施(東京方面2回・阿寒)
- ・プロ野球観戦/温泉一泊

- ・農業班活動の効率化を図るための除草用カルチ購入
- ・活動時の作品販売のため・直売店 well 開店(5月～10月まで)
- ・芸人コンサート鑑賞(山内恵介ほか)
- ・利用者自治会「ひまわり会」主催行事 まんぷくまつり 開催
- ・利用者自治会「ひまわり会」主催行事 年忘れパーティー 開催

#### □対外行事及び地域貢献

- ・東土狩地区「花咲ける郷」地域活動の路側ほか地域周辺のゴミ拾い・除草作業に参加
- ・地域貢献事業(西中音更小学校・緑南中学校・駒場中学校へ)花の寄贈
- ・福祉まつり in おとふけ参加・出店
- ・更葉園まつり参加・出品
- ・十勝ばん馬まつり参加・出品
- ・帯広ケアセンター収穫祭参加・出品
- ・大谷短大 蘭華祭参加・出品
- ・帯広ライオンズクラブ招待 ボウリング大会参加(スズランボウル)

#### □医療と給食

障害者総合支援法において地域生活移行に焦点があたる中、あらためて障がい者入所支援施設の役割を再認識し、利用者個々の疾病状況や日々の様子観察を通して、早期受診・早期発見を心掛け、健康管理と食事提供に関する検討を重ね、健康寿命の維持に努めてきました。これまで培われてきた障がい者支援施設の機能や専門性を生かして、障害のある人が毎日健康で生き甲斐を持ちながら施設で暮らして頂くための健康に対する支援は、今後もより重要となってきています。障がい者支援施設を地域において安心して暮らせる住まいの場として位置づけたくうえで休日、夜間も含め職員を配置し、365日24時間の生活を支える支援体制を整えてきました。日中生活サービスを含めた支援体制は一日を通してトータルケアができ、地域医療、看護師、生活支援員、栄養士、調理師等、それぞれの専門職配置を元にチーム支援体制を構築し、摂取管理による成人病の予防や嚥下機能の維持など様々な食事、医療ケアに対応できるよう取り組んできました。利用者の重度・高齢化が急速に進む中、「食」に関しては健康維持、長寿に欠かせない行為である一方、特に食事形態についても様々な形態が望まれる中、医療、給食との連携を密にしながら、健康維持と医療ケアの両面から対応してきました。障害特性や個々の状態、ニーズに応じた包括的な医療ケアの提供は看護師、栄養士のみならず、支援サービスに関わるすべてのスタッフが情報共有をし、より専門性を必要とする障がい者へのトータルケアを今後も行っていきたいと考えます。主に実施してきた健康診断等は下記になります。

- ・健康診断の実施(春と秋の2回～往診による実施)
- ・前立腺がん検診の実施(健康診断時に実施)
- ・歯科検診を往診にて実施(緑陽台歯科)
- ・肝炎ウイルス検査の実施
- ・子宮がん検診・乳がん検診の実施
- ・骨粗鬆症検診の実施
- ・肺炎球菌ワクチン接種の実施
- ・インフルエンザ予防接種を往診にて実施
- ・感染症についての対応(年間を通してのうがい・手洗い・消毒、園舎内の清掃の徹底)

#### □権利擁護・虐待防止

- ・道知協や道社協主催の権利擁護研修会に参加
- ・各種希望や要望について自己決定権を尊重し、利用者へのアンケートの実施

- ・虐待防止に関しての自己チェックの実施と検証
- ・権利擁護・虐待防止についての施設内研修の実施
- ・家族に対して権利擁護と虐待防止についての説明会と啓蒙(保護者懇談会等)

#### □人材育成・研修関係

専門知識の習得やスキルアップを図り、人材育成に務めると共に資格取得の推進を図り、個々の資質向上に繋がるよう務めてきました。エルダー制度を利用した職員の人材確保と細かな業務内容の引き継ぎを行いながら、即戦力のある人材育成が出来るよう努めてきました。

特に急がれている強度行動障がい基礎研修に関しては、全職員の取得を目指していますが、研修受講者の希望人数が多く、予定通り受講できていないのが現状です。新年度についても積極的に受講申込みを行い、個々のスタッフの意識向上に努めたいと思います。

#### □防 災

昨年、十勝を直撃した台風の影響で、各市町村も大きな被害を受け、防災の意識をより一層高めていかなくてはならない事を実感させられる年でありました。当施設に於いても避難経路の再確認や緊急時の食料支援やその他防災備品の準備等、進めてきました。また、火災避難訓練、自然災害訓練を年3回実施し、広域消防署署員にも同行頂き、実地訓練も実施し、講評を頂きながら日々の防災意識を高めています。

#### □環境改善等

- ・通所送迎に利用している公用車が老朽化により新規入れ替え

#### □施設入所支援

- ・10/14 ～65歳男性 施設入所支援契約解除(急死により)
- ・12/ 7 ～62歳男性 施設入所・生活介護支援契約解除(医療機関へ移行)
- ・29/3/14～18歳男性 施設入所・生活介護利用契約・利用開始

#### □生活介護支援

- ・4/28 ～26歳男性 生活介護契約解除(他施設へ変更)
- ・5/22 ～38歳女性 生活介護契約解除(逝去により)
- ・29/3/28～18歳男性 生活介護利用契約
- ・29/3/29～18歳女性 生活介護利用契約
- ・29/3/31～68歳男性 69歳男性 生活介護契約解除(同法人事業所へ利用変更)

## 緑陽荘 事業報告

障がい者を取り巻く環境は時代背景により紆余曲折、一進一退を繰り返しながらも「共生社会の実現」という大きなゴールに向けて舵を取り始めました。障がいを持った方々の人権を守る為の法令も概ね整備され、今年度4月には「障害者差別解消法」が全面施行されました。向かうべき方向は定まったはずですが、障がい者が巻き込まれる事件は、後を絶たず、神奈川県障がい者支援施設で発生した殺傷事件は、現在の福祉施策を逆行するかのよう「偏見」と「差別」が背景に引き起こされました。今回の事件は極めて特異なものでしたが、内閣府の調査に「共生社会」の周知度について報告されています。残念な結果ではありますが、周知度は約40%程度に留まっており、障害者差別解消法の周知・啓発、心のバリアフリーの取り組みなど一層の理解促進への努力が必要な状況です。「年齢や障害の有無等にかかわらず安全に安心して暮らせる共生社会の実現」についてあらためて考える一年となりました。

#### □利用者支援

・個別支援計画を基本に利用者の意思や自立を尊重し支援を展開してきました。また、生活に楽しみを見いだしていただけるよう余暇支援などではできる限り個別の対応を心がけました。

・加齢に伴う身体及び精神面の変化を予測し、安全に生活していただけるよう介助の方法やハード面の見直しを随時実施しました。また、利用者の障がい特性を理解し、最善の支援が提供できるよう各種研修会に積極的に出席しました。

#### ①施設入所支援

・生活支援や健康、身体機能を維持する為の機能訓練、余暇活動を中心に支援を進めてきました。また、加齢や疾病に伴い、動くことが億劫になる、関節痛などの痛みで動作が限定されるケースも見られたことから個別の身体状況を考慮した介助方法の選定や足浴、マッサージなど緩和ケアにも配慮した支援を取り入れました。

#### ②生活介護（通所すまいる）

・創作活動やレクリエーション、健康・体力づくりを目的にしたウォーキングなど、従来から行ってきた活動の他、家庭菜園での野菜づくり、花の育苗等の作業活動を新たに取り入れるなど、魅力ある活動が提供できるよう創意工夫に努めています。

・保護者には、連絡帳や電話連絡、個別懇談を適宜実施、家庭での様子やニーズの把握に努めました。また希望が多かった入浴サービスも週1回ではありますが定期的の実施しており、ミストシャワーなど設備が整っている事もあり、身体の不自由な方も安心して利用することが出来ています。

#### □保健医療

・今年度も利用者の健康維持を最優先に取り組みました。体調の変化や痛みを訴えることが難しい方が多いことから、日々のバイタルチェックは状況に応じて頻度を変更したり、保清支援の際に身体確認を行うなど、変化を見逃すことのないよう努めました。肺炎や心不全で入院される方もおられましたが、発見が早かったことで短期間で回復し、施設での生活に戻ることができました（入院9件）。

・感染症対策においては、手洗い・うがい、口腔ケアを基本とし、インフルエンザ予防接種、肺炎球菌ワクチン接種を行ってきましたが、今冬にインフルエンザが流行し、11名の利用者が罹患したため、医師の指示で予防用タミフルを服用しました。幸い、重症化することなく終息しましたが、感染症流行期においてはバイタルチェックの回数を増やすなど体調変化を早期に発見できるよう努めました。

・排便コントロールや疾病の状態に合わせ特定保健用食品を積極的に取り入れました。

・体操やウォーキング、運動器具などを使いながら継続した機能訓練を実施していますが、その他に特定疾患や廃用症候群に伴う筋緊張や関節拘縮の改善を図るために訪問マッサージを週2回実施しました。

#### □給食

・利用者の栄養状態の維持、改善や食生活の質の向上を図るため、調理方法や献立を工夫するとともに、栄養ケア会議等を通じて、他職種と連携しながら利用者個々の嚥下状態等の特性に配慮した食事の提供を行いました。

・嗜好調査の実施、利用者の方にも給食会議に出席していただくなかで個々のニーズを把握するとともに、行事食やバイキング、選択メニューを企画するなど、「食」に対する満足度を高めるための様々な取り組みを行いました。

#### □余暇支援

・集団生活がマンネリ化しないよう自治会主催の行事（夏祭り・忘年会）や選択行事を多く取り入れることで気分転換を図り、それが心のケアにも繋がりました。また、利用者の身体機能の低下など参加できる行事が少なくなっていますが、手厚い人員配

置など調整を重ねたことで要望が多かった野球観戦を一泊旅行の中で企画し、普段の生活では味わうことのできない特別な時間を過ごすことができました。

#### □権利擁護と虐待防止

- ・施設内外の研修を通じて利用者の権利擁護、虐待防止についての啓発と意識高揚に努めました。また、虐待事例が報道された際は事例の報告と注意喚起を促す取り組みを行うとともに、利用者には自治会活動を通じて周知に努めました。
- ・また毎月「業務振り返りチェック」を実施し、職員個々の利用者支援に対する姿勢を振り返る機会を設けています。

#### □リスクマネジメント

- ・不測の事故、事態を未然に防ぐには十分な「見守り・観察」が必要とされます。スタッフ全員が同じレベルで個々の利用者を見守り、安全を確保するためには、その場面ごとに注意すべき視点を明確にし、職員間で共有することが重要です。リスクは発生しうるものという前提に立ち、より質の高いサービスが提供できるようリスクマネジメント体制の強化を図り、迅速な改善策の実行に努めました。

事故報告 1 件（振興局報告）

アクシデント 26 件                      ヒヤリ・ハット 10 件                      苦情件数 0 件

#### □防 災

- ・火災避難訓練（年 2 回、消火訓練を含む）と地震を想定した避難訓練を実施するとともに、非常用通報装置の更新による取り扱い説明会を関係機関の協力のもと実施しました。

- ・今年度、台風が連続して 3 回上陸し、十勝地方にも大きな被害をもたらしました。河川の氾濫により地域生活者の方の一時避難・宿泊場所として日中活動棟を解放、また通所利用者の家庭に連絡を取り、希望された家族（1 組）には一時避難として荘の静養室を利用させていただきました。

災害時対応マニュアルに沿って連絡体制や備蓄に備えてきましたが、今回の事象を検証し、どのような対策・備えが必要なのか情報収集などに努め、今後の危機管理に役立てていきます。

- ・神奈川県で発生した事件を受け、建物周辺の街灯の取り付けや夜間時の施錠確認の徹底など防犯に対する職員の危機管理意識の向上に努めました。

#### □人材育成

- ・重度者支援や高齢化への対応、在宅支援（短期入所、日中一時）など、期待される役割を遂行できるよう、専門職としてのキャリアアップに繋がる研修などに積極的に参加しました。

#### □主な整備、修繕

- ・非常用通報装置の更新
- ・食堂椅子の更新

## デイセンターぱんせい事業報告

平成 28 年 5 月 25 日、改正障害者総合支援法が成立し、現在平成 30 年 4 月 1 日の全面施行に向けた検討が進められています。その中では、新たなサービスとして「自立生活援助」や「就労定着支援」が創設、また高齢障がい者の介護保険サービスの円滑な利用に向けた仕組みなどが提案されています。

平成 24 年生活介護事業所としてスタートし、平成 26 年に就労継続支援 B 型がデイセ

ンターばんせいにて行われ、現在の形となり3年が経ちました。

生活介護はグループホームを含めた在宅の方の日中活動の受入先として、また就労継続支援B型は法人内で唯一の就労系事業所として、利用者や保護者の願いに応じていくことを第一に進めてきました。

生活介護については、多様なカリキュラムを事業所の特色の一つとして考え、利用者を楽しんでもらえるサービスを提供してきました。特に生活支援では、道内でも平均年齢の高い事業所として知られており、健康増進や高齢者対策に配慮しました。また10月には男性利用者1名が病気のため亡くなり、契約解除となっています。

就労継続支援B型は、新年度早々から音更町の「ふるさと納税の謝礼品」と大口の取引先の注文が振るわない状況があり、大きな減収が心配されました。そのため音更町役場、十勝総合振興局はじめ、積極的に近郊の事業所への販売を進めています。切迫した状況に背中を押されたことや生活介護職員のサポートもあり、最終的に15,019,783円と売上げを伸ばすことになりました。また、事業開始して初めての一般就労者の輩出にも成功しています。

## 利用実績

### ①生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	22	20	22	269
在籍者数	27	28	28	28	28	28	28	27	27	27	27	28	
利用延べ人数	482	515	517	516	459	474	503	468	498	453	434	490	5,809
平均利用者数	21.91	22.39	23.50	22.43	19.96	21.55	21.87	21.27	21.65	20.59	21.70	22.27	21.59
実績(%)	81.14	79.97	83.93	80.12	71.27	76.95	78.11	78.79	80.19	76.26	80.37	79.55	79.98

### ②就労継続支援B型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	22	23	22	23	23	22	23	22	23	22	20	22	267
在籍者数	14	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
利用延べ人数	279	236	253	263	240	246	243	230	236	223	204	231	2,884
平均利用者数	12.68	10.26	11.50	11.43	10.43	11.18	10.57	10.45	10.26	10.14	10.20	10.50	10.80
実績(%)	90.58	85.51	95.83	95.29	86.96	93.18	88.04	87.12	85.51	84.47	85.00	87.50	82.47

## 事業の概要

### ・生活介護事業

利用者一人一人の特性やニーズに配慮しながら、日中活動と生活支援を提供してきました。日中活動では、意思決定に基づく参加を大切に、生産活動と創作活動を中心に取り組み、働くことへの意欲、生きがい、余暇の充実などに働きかけました。また行事やレクリエーション活動などでは、楽しむことと同様に、社会性を育むことも目標にしました。

生活支援については、給食、入浴、口腔ケア、排泄介助など利用者のニーズに合わせた支援や介助を行ってきました。各活動に参加する中でも身体機能やADL（日常生活動作）などに刺激を与え、健康維持や体力増進に繋がるように支援しています。特に高齢化が進行する中では、転倒事故を中心に様々な事故に対して注意や配慮をしてきました。

### ・就労継続支援B型事業

3年目になる就労継続支援B型は、これまで販売の中心は、近郊市町村の飲食店、各種イベント(11カ所)、お歳暮セット、そして音更町の「ふるさと納税の謝礼品」となっていました。ところが「ふるさと納税の謝礼品」と大口の取引先からの注文が少なく急迫した状況となり、売上げ、収益を改善するために、積極的に販路の拡大に努めました。必要なパンフレット作り、注文書の配布、営業をはじめ、支出内容の見直しなども行いました。肝心の商品に関しても、利用者、職員ともに製造者としての意識と技術を高め、美味しく安全な食品を作ることを目指しました。

また、ありがたいことに今年度も、音更町から「ふるさと寄附金活用事業」として、真空包装機、フードミキサーなど5点の購入を支援していただきました。これらの事が実を結び、売上げでは15,000,000円を超え、利用者の平均工賃月額も、約12,000円と増額となっています。

また、一般就労への取り組みとして、関係機関と協力を図りながら進めていたところ、男性1名を念願だった一般就労へ結びつけることができました。

今後は、各取引先、個人のお客様を大切に、製造以外のことにも目を向け、販売や製造を下支えできるような体制を整えていきたいと考えています。

### ○主な売上げ、販売実績

<b>振り込み関係</b> 4,982,760円	<b>現金販売</b> 7,955,433円
内訳 音更物産センター 2,083,000円	<b>給食関係</b> 1,038,450円
有沢精肉店 980,751円	内訳 晩成学園 772,295円
北海道ホープランド 547,182円	緑陽荘 164,815円
ららマルシェ 350,950円	その他 101,340円
グリーンストーリー 311,000円	<b>直売店</b> 770,880円
オークル 279,600円	<b>各種イベント販売</b> 272,250円
更葉園 84,200円	<b>その他</b> 10円(金利)
その他 346,077円	<b>合計</b> <u>15,019,783円</u>

### 利用者支援

事業所の基本理念のもと、利用者、保護者の希望や願いを大切に、利用者のニーズや特性に配慮した支援に努めました。支援者である職員は、資質や専門性を高めるため、各種研修会の出席や資格の取得を積極的に行ってきました。

### 各種活動

#### ・生産活動(生活介護)

生産活動は馬鈴薯、牛蒡、花豆、ハウス野菜を中心に15種類の野菜、4種類の花苗を作り、年の後半からしめ縄作りも行ってきました。栽培や収穫、製品作りの楽しさや喜びを感じることで、生産活動を通して身体を動かすことを大切にしました。

収益は、しめ縄作りで増収を果たしたものの、露地野菜が8月の台風の影響をまともに受けてしまったことや、花豆には欠かせない曲がり竹の更新時期も重なり、全体では予算を大きく下回ってしまいました。

#### ・創作活動(生活介護)

自由画や塗り絵、貼り絵、季節の作品作り(ウェルカムボード、書き初め、氷のお面他)、壁面装飾、壁新聞などの作品作りを通して、作る楽しさと完成したときの喜びを感じてもらいました。例年出展している「みんなあ〜と展(北海道知的障がい者芸術展)」は、27作品出展し2作品が入選を果たしています。これらの作品については、センター便りや収穫祭などを通じて保護者にも見ていただいています。

#### ・行事・グループ別活動・土曜レクリエーション

センター全体で実施に至るもの、個別で選択して行うものがありますが、ともに利用者の希望や季節感のあるものを提供してきました。希望の多い旅行については、生活介護は7月に函館方面、札幌方面に分かれて実施、就労継続支援B型は9月に札幌方面に、同じ就労系事業所のフレーバーカントリー(新十津川町)の視察、交流もかねて実施しています。

収穫祭は、利用者、職員その他、保護者20名が加わり総勢63名で実施し、模擬店、スライドショー、カラオケをにぎやかに楽しみました。



土曜日レクリエーションは、年間 25 回実施し、その他開所記念昼食会、納涼レクリエーション、忘年会、慰労会、調理実習などを楽しんでいます。

#### ・スポーツ活動

サンドームおとふけの利用、パークゴルフ、プールの活動を中心に、その他サイクリング、クロスカントリー、アーチェリーを行ってきました。また各種スポーツ大会にも積極的に参加しています。成績の方は、全道パークゴルフ大会 12 位、道東ミニバレーボール大会 A ブロック 4 位、十知協アジャタ大会 A リーグ 6 位という内容結果で、参加された方は日頃の練習成果を十分に発揮してくれました。尚、十知協パークゴルフ大会は、台風の影響のため中止となっています。

#### ・給食

給食は、調和の取れた食事を提供し必要な栄養を摂取することと、生活上での楽しみとして大切にしています。また年間を通し計画的に「バイキングメニュー」「選択メニュー」を取り入れ、日頃とは違う給食提供にも心がけ、利用者に喜んでもらっています。給食運営会議及び検食の結果は、すみやかに反映させるとともに、食事中の喉詰りへの注意や禁止食品の徹底などにも努めてきました。

#### ・健康管理

連絡帳や電話連絡、通所後のバイタル測定など、利用者の体調把握を徹底し、必要に応じて看護師の指示を受けています。夏期は熱中症対策で水分補給を、冬期には手洗い・うがい・消毒など感染症対策を、しっかり行ってきました。

運動不足や体重増加が懸念される利用者も多く、ウォーキングをはじめ身体の動かすことをカリキュラムの中に取り入れています。また高齢化が進む中で、義歯の使用や嚥下に問題が生じてくる利用者もあり、口腔ケアも重要となってきています。

#### ・リスクマネジメント（事故報告及び苦情解決）

活動中の事故やヒヤリ・ハットに関する報告を徹底し、対応策を導き出すように努めてきました。今年度は、ヒヤリ・ハット報告を重要視し、たくさんの件数を積上げ事故防止を図っています。平成 28 年度は、事故報告件数 4 件、ヒヤリ・ハット件数 42 件となっています。事故の内容は、作業中の怪我や精神的に落ち着かないことから端を発したものが多く見られています。ヒヤリ・ハット報告は、高齢化を反映した転倒事故に関するものが多い状況でした。

#### ・防火・安全対策

消防計画に基づいた火災避難訓練を 2 回実施し、利用者、職員の防災意識を高めるように働きかけてきました。特に職員については、災害時の役割分担の確認や実際の取るべき行動を反復訓練しています。また音更町の指定避難場所へ利用者、職員徒歩で移動することも実施しています。その他、非常災害対策計画書（防災マニュアル）と事業継続計画（BCP）の作成も終わっています。

#### ・職員研修

職員の自己研鑽、職員の集団の専門性を高めるため、内部研修及び外部研修に積極的に参加しています。ただし、8 月の台風の影響で交通機関が正常化してなく、やむを得ず不参加に至ったものもありました。新規採用者に対してのエルダー制度は、導入して 2 年目になり定着してきた感があり、その結果を、事業所の受け入れ体制に反映させています。

その他、6 月～9 月まで毎月 2 回、学生の自主実習を受け入れています。

#### ・主な設備及び備品の購入

真空包装機 フードミキサー 業務用冷蔵庫 包丁まな板殺菌庫 手動クリッパー  
(以上、音更町ふるさと寄附金活用事業) 厨房用冷凍冷蔵庫

## 地域支援センターらいいふ事業報告

はじめに

平成28年度は、地震や台風などの自然災害や相模原での大きな事件があり、大変な年となりました。この災害や事件は、知的障がい者やその関係者にとって大きな不安をもたらしました。熊本地震、鳥取地震では障がい者の避難所対応が問題になり、相模原事件では重度障がい者の存在価値が問われ、様々なところで議論になりました。なお、自然災害については当事業所も台風10号の被害を受け、ポラリスが床上浸水になり、3住居14名の利用者が緑陽荘に避難して難を逃れています。日頃からの避難訓練の重要性や地域住民との関係性構築の必要性を再認識する機会になっています。

一方障害者福祉制度・施策に目を転じますと、平成30～32年度を期間とする障害福祉計画と障害児福祉計画の基本指針が公布され、福祉施設の入所者の地域生活への移行、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築、地域生活支援拠点等の整備、福祉施設から一般就労への移行等、障害児支援の提供体制の整備等障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の提供体制の確保に係る目標の設定が改正されています。

そうした中当事業所は、平成18年の準備室開設から11年が経過し、この間定員が40名から90名、ホーム数も7ホームから18ホームに増えて大所帯となっています。また、制度改正も幾度となく行われ、とりわけ消防法と建築基準法の改正により、消防用設備等の設置基準が改正され、今後は平成30年度末までに設置義務のある自動火災通報装置の設置に向けて準備を進めていく必要があります。

また利用者支援については、高齢期を迎えてからも住み慣れた環境のもとで生活を続けることが望ましいわけですが、24時間体制で介助や支援をすることが難しい状況にあります。今後、老化に伴う心身の変化に対応して安心・安全の確保が十分にできる体制の整備や物理的条件を整えていくことが、大きな課題となっています。

### 1. 事業体系

#### (1) 利用現員

グループホーム（共同生活援助（介護サービス包括型）事業）

ナインハイツ（男性4名）・こずえホーム（男性4名）・いちいホーム（女性2名）  
ホーム飯高（男性3名）・ハイツ木野（女性3名）・ひまわり（男性4名）  
ハイツ97（男性8名）・木野住宅（男性5名）・鈴蘭住宅（男性6名）  
太陽（男性6名）・コスモス（女性6名）・すみれ（女性6名）  
ラベンダー（女性6名）・ポラリス（男性5名）・どりーむ（男性4名）  
ひびき（男性5名）・みずき（男性3名・女性2名）・朝陽（男性4名）

※平成29年3月31日まで

#### (2) 事業の利用率（％）

事業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
らいいふ	97	97	97	98	98	97	97	97	97	97	96	96	97

(3) 月別 現員・利用開始・終了の状況

月	現員			利用開始			終了		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
4月						0			0
5月	61	26	87			0			0
6月	61	26	87			0			0
7月	62	26	88	1		1			0
8月	62	26	88			0			0
9月	62	25	87			0		1	1
10月	62	25	87			0			0
11月	62	25	87			0			0
12月	62	25	87			0			0
1月	62	25	87			0			0
2月	61	25	86			0	1		1
3月	61	25	86			0			0
合計	739	305	1044	1	0	1	1	1	2

(4) 障害支援区分の状況

性別	障害支援区分						計
	非該当・1	2	3	4	5	6	
男性	9	17	22	10	3		61
女性	3	7	5	8	2		25
合計	12	24	27	18	5		86

平成29年3月31日現在

(5) 年齢状況

性別	利用者数	最高齢	最年少	平均年齢
男性	61	79才	19才	48.3才
女性	25	76才	19才	48.0才
合計	86			48.2才

2. 運営体制

- ・1係2班体制を敷き、18ホームの支援に当たっています。
- ・勤務体制は、平日早番2名、平常4名～5名、遅番3名～4名、日祭日（1日通し）2名としています。
- ・各ホームは担当割りとして、班職員で相談・協力により利用者を支援し、また業務分掌も同様に分担しています。

3. 日常生活支援

①生活支援

- ・自立生活を送る上で必要となる社会人としての自覚を高め、多くの社会経験を重ねていくことを目指し支援してきました。特に対人関係を保つための社会的なルール、仕事をする上での責任など、利用者に理解しやすい日常的な事柄に即して支援しました。
- ・利用者が適切な支援を得るために自己の意志を表現することができるよう、利用者、世話人、支援員の関係の構築に努め、各々が安心して生活できるよう個々の心配事や悩み、不安に対して親身に受け止め安定を図れるよう支援しました。
- ・訪問を通して利用者個々の生活状況、健康・精神状態を把握し、日々の生活の中の

悩みや不満、将来への不安等を聴き取り、個別支援計画に沿った適切な助言や支援の提供に努めました。

- ・利用者個々が主体的に生活を送ることができるように、支援の見極めやサポートの在り方について振り返り、利用者の持っている「エンパワーメント」を活かしながら取り組むように心がけました。

- ・高齢化により身体機能の低下や物忘れ、認知症を発症し、日常生活に支障を来す利用者も出始めているため、安心・安全な生活を確保できるような職員の配置や、夜間支援体制の整備が課題です。

#### ②健康管理

- ・音更町の一般・特定健診及びがん検診、勤務先や活動先若しくは掛かり付けの医療機関で健診を受けています。年齢に関係なく生活習慣病の予備軍が増加しているため、健康に対する意識の向上や疾病の早期発見・早期治療に努める必要があります。

- ・今年度もインフルエンザ予防接種に加え、65歳以上の方を対象に「肺炎球菌ワクチン接種」を行っています。

- ・利用者の健康維持のために、定期的な通院と必要に応じての通院加療、投薬の管理を世話人と職員とで行っています。また、利用者自身での健康管理を促すために、うがいや手洗い、消毒、食後の歯磨き、定時薬の服用や塗布について、自身で行えることは行ってもらう確認を行ってきました。

- ・歯科通院については、歯科検診を含めて定期に受診するようにしてからは、治療が長期化する人が減っているため、今後も日頃の歯磨きの励行、義歯の管理や口腔内の保清への支援及び定期的な検診を実施する必要があります。

- ・延べ通院数が増え、特に若年層にメタボリック症候群や生活習慣病の予備軍と指摘され、健診の結果でも精検・再検の対象者が多くいたため、日頃からの食生活や健康管理に配慮する必要があります。

#### ③食事の提供

- ・食事は栄養と健康を維持するだけでなく、利用者にとって日々の生活の中で大きな楽しみとなっています。旬の食材を使用した季節感の感じられる食事や、個々の健康状態に合わせた治療食の提供や嗜好に合わせたメニューの選定等質の高い食事を心がけてきました。

- ・「ひとり暮らし」を希望している利用者には、メニューの選定、買い物、調理に参加してもらう等、次のステージに向けて働きかけを行いました。

#### 4. 日中活動支援

- ・利用者が通勤している就労先と常に連絡を取り、経済的自立に向けて利用者が安定して休まずに通えるため就労先とセンターとで日中・夜間通して一貫した支援を行うよう努めました。

- ・個別に問題が発生した際には就労先とも連携を図り、解決策についての相談・検討を重ね、問題解決に努めました。

- ・通所系のサービスを利用する方については活動先との連絡調整が増加傾向にあり、特に早退や休所、食事の有無等の確認が煩雑ではありますが、個別の状態を把握して今後も連絡を取り、安定して利用できるように配慮していきたい。

〈就労先〉

事業所名	人数	事業所名	人数
十勝ランドリー有限会社	8名	株式会社セイコーフレッシュフーズ	1名
北海道製鎖株式会社	5名	十勝冷凍食品株式会社	1名
株式会社満寿屋商店	1名	株式会社ヒシガタ	1名
音更町農業協同組合	1名	有限会社パールクリーニング	1名
株式会社エフビーエス	1名	社会福祉法人音更晩成園	1名
株式会社ダイイチ	3名	株式会社福原	2名
東陽製袋株式会社	4名	株式会社しまむら	2名
株式会社長崎屋	2名	有限会社ヤマトおしぼり	3名
杉山農場	2名	有限会社ジャストフーズ	1名
富士金網製造	2名	株式会社中野製作所	1名
株式会社柳月	3名	二子口畜産株式会社	1名
医療法人徳洲会帯広徳洲会病院	1名	山本農場	1名
DCMホームマック株式会社	1名		

法人名	施設・事業所名	人数
社会福祉法人音更晩成園	障がい者支援施設 晩成学園	8名
	障がい者支援施設 緑陽荘	5名
	障がい福祉サービス事業所 デイセンターぱんせい	20名
特定非営利活動法人どんぐりの家福祉会	どんぐりの家	5名
社会福祉法人音更町柏寿協会	在宅老人ケアセンター らんらん	1名

5. 金銭管理

- ・利用者預かり金管理規程及び金銭出納管理サービス契約書にて利用者の預かり金等の取り扱いに関する事項を定め、管理の適正を図っています。
- ・家賃は利用者数にて均等割し、一人当たり22,500円～50,000円とし、光熱水費、日用品費、食費などの生活費については従来どおりホーム単位で精算しました。
- ・毎月の生活費は各ホームもしくはらいふにて管理している利用者の預金通帳より出金し、世話人はホームの金庫、支援員はらいふの金庫で管理しました。毎月末には各項目別に収支報告書を作成し、らいふにて確認・監査を受けています。
- ・利用者の日々の小遣いは、各自の財布にて個人管理し、随時世話人及び支援員と共に残金を確認しています。
- ・預貯金も少なく、生活費などの不足が予想される利用者に関しては、今後生活保護を利用する等の支援も視野に入れなければなりません。

6. 安全管理

常に安全管理の意識を持ち、ヒヤリ・ハットや軽微な事故があった場合には所定の報告書を作成し、ヒヤリハット・アクシデント会議で分析・評価を行い、事業所全体の危機管理・安全管理の意識向上に努めました。

項 目	事故	ヒヤリハット	項 目	事故	ヒヤリハット
1) 転倒・転落・けが等	8件	2件	2) 異食・禁食物摂取		
3) 誤嚥			4) 服薬関係	1	
5) 経管栄養	—	—	6) その他医療行為		
7) 所在不明・無断外出	1件		8) 車関係	4件	
9) その他（行動面等）		4件	合 計	5件	3件

#### 7. 防災訓練の実施、防犯体制の整備

- ・火災震災等に関してはそれに対応すべく、年2回火災避難訓練を実施しました（実施時期 6月、1月）。
- ・次年度以降、風水害を想定した避難訓練も行います。
- ・セコム株式会社とセキュリティサービスの契約を結び、火災や犯罪等の異常事態に備えています。

#### 8. 平成28年度の主な施設整備

- ①車両（ハイエース）の更新

## 法人事務局事業報告

### 理事会開催状況

第1回 理事会 平成28年5月27日開催

- 協議事項
- ◎平成27年度事業報告について
  - ◎平成27年度音更晩成園資金収支決算について
  - ◎平成27年度決算監査報告について
  - ◎基本財産の処分について

第2回 理事会 平成28年6月1日開催

- 協議事項
- ◎理事長及び副理事長の互選について
  - ◎常務理事及び理事長職務代理の同意について

第3回 理事会 平成28年12月16日開催

- 協議事項
- ◎評議員の選任について
  - ◎車両の取得について
  - ◎社会福祉法人制度改革に伴う定款変更について
  - ◎諸規程・諸規則等の制定について
    - ・役員等報酬規程
    - ・評議員選任・解任委員会運営細則

第4回 理事会 平成29年3月23日開催

- 協議事項
- ◎施設整備計画（改築）の事業実施について
  - ◎平成28年度音更晩成園資金収支補正予算案について
  - ◎平成29年度事業計画について
  - ◎平成29年度音更晩成園資金収支予算案について
  - ◎諸規程・諸規則の一部改正について
    - ・就業規則
    - ・臨時職員就業規則
    - ・給与規程
    - ・職員の定年等に関する規則

◎評議員選任・解任委員会の開催について

◎評議員候補者の推薦について

### 評議員会開催状況

第1回 評議員会 平成28年5月27日開催

- 協議事項
- ◎平成27年度事業報告について
  - ◎平成27年度音更晩成園資金収支決算について
  - ◎平成27年度決算監査報告について
  - ◎基本財産の処分について
  - ◎役員を選任について

第2回 評議員会 平成28年12月16日開催

- ◎社会福祉法人制度改革に伴う定款変更について
- ◎諸規程・諸規則等の制定について
  - ・役員等報酬規程
  - ・評議員選任・解任委員会運営細則

第3回 評議員会 平成29年3月23日開催

- 協議事項
- ◎施設整備計画（改築）の事業実施について
  - ◎平成28年度音更晩成園資金収支補正予算案について
  - ◎平成29年度事業計画について
  - ◎平成29年度音更晩成園資金収支予算案について
  - ◎諸規程・諸規則の一部改正について
    - ・就業規則
    - ・臨時職員就業規則
    - ・給与規程
    - ・職員の定年等に関する規則

### 評議員選任・解任委員会開催状況

第1回 評議員選任・解任委員会 平成29年3月23日開催

◎評議員の選任

### 地域協議会開催状況

第1回 平成29年2月22日

出席者12名

### 道実地指導・指導監査の実施

平成28年8月24日

社会福祉法人 音更晩成園

障害者支援施設 晩成学園

障害者支援施設 緑陽荘

### 法人監査実施状況

第1回 平成28年5月25日

◎平成27年度事業運営と決算状況について

第2回 平成28年8月1日

◎平成28年度第1・四半期の運営と経理について  
各会計収支執行状況及び利用者預り金の管理状況について

第3回 平成28年11月1日

◎平成28年度第2・四半期の運営と経理について  
各会計収支執行状況及び利用者預り金の管理状況について

第4回 平成29年2月2日

- ◎平成28年度第3・四半期の運営と経理について
- 各会計収支執行状況及び利用者預り金の管理状況について

### 虐待防止委員会開催状況

- 第1回 平成28年5月16日
  - ◎平成28年度虐待防止委員会組織の確認について
  - ◎平成28年度虐待防止委員会の業務推進について
- 第2回 平成29年2月15日
  - ◎平成28年度事業所部会報告について
  - ◎平成29年度虐待防止委員会の業務推進について

### 虐待防止委員会研修会

- 第1回 平成29年2月15日 参加者52名
  - ◎「権利擁護と成年後見」
  - ～講師 音更町社会福祉協議会 主事 堀田 満生氏

### 法令遵守検討会議開催状況

- 第1回 平成28年4月11日

### 改築検討委員会開催状況

- 第1回 平成28年 4月19日
- 第2回 平成28年 5月12日
- 第3回 平成28年 5月23日
- 第4回 平成28年 5月30日
- 第5回 平成28年 6月 7日
- 第6回 平成28年11月 4日
- 第7回 平成28年11月17日
- 第8回 平成28年12月 1日
- 第9回 平成28年12月21日
- 第10回 平成29年 1月23日
- 第11回 平成29年 2月 8日
- 第12回 平成29年 2月28日
- 第13回 平成29年 3月13日

### 保護者会行事「夏まつり」の実施状況

平成28年6月26日 晩成学園にて425名参加

### 役員等研修の実施

- 役員 十勝社会福祉法人経営者懇談会総会・研修会（帯広市）
  - 平成28年4月26日 参加者 2名
- 北海道社会福祉協議会社会福祉法人経営者セミナー（札幌市）
  - 平成28年7月 7日 参加者 2名
- 全国社会福祉法人施設経営者大会（熊本市）
  - 平成28年9月14日～15日 参加者 4名
- 社会福法人ブロック研修会（帯広市）
  - 平成28年 9月30日 参加者 3名
- 十勝社会福祉法人経営者懇談会 人材交流事業
  - 平成28年10月24日～26日 参加者 1名
- 北海道社会福祉協議会法人役員研修（札幌市）



平成28年11月18日	参加者 1名
北海道社会福祉協議会社会福祉法緊急経営セミナー（札幌市）	
平成28年11月21日	参加者 1名
制度改革事務説明会（帯広市）	
平成28年12月21日	参加者 1名
衛生委員会施設内研修「メンタルヘルスケア」	
平成29年1月20日	参加者33名
平成29年2月17日	参加者38名
社会福祉充実財産研修（帯広市）	
平成29年3月16日	参加者 2名

## 役職員等の動静

◎理事	退任	5月31日付	永谷 芳久	
	就任	6月 1日付	小針 誠治（理事長再任）	
			浜井 信一（副理事長再任）	
	◎監事	就任	6月 1日付	菅原 資之（常務理事再任）
				中川 康則（理事長職務代理）
				細木 秀則（再任）
				吉田 憲一（再任）
				栗林 秀治（再任）
				東端 恭子（新任）
				石田 秀誠（再任）
菊地 勝春（再任）				
◎評議員	就任	2月 1日付	全員再任	
◎職員	採用	4月 1日付	細貝 清子（晩成学園支援員）	
			相楽 和人（晩成学園支援員正職登用）	
			村井小百合（らいふ支援員正職登用）	
			島倉 信（緑陽荘支援員正職登用）	
			結城 朋子（デイセンター支援員正職登用）	
			長尾 大道（晩成学園支援員正職登用）	
			若山 幸子（デイセンター支援員正職登用）	
			佐藤千津子（晩成学園支援員正職登用）	
			加藤 嘉悦（緑陽荘支援員正職登用）	
			江本 卓弥（緑陽荘支援員正職登用）	
			川端 義人（晩成学園支援員正職登用）	
			大宮 孝子（緑陽荘支援員正職登用）	
			鈴木 瑞恵（緑陽荘支援員正職登用）	
			横塚 亜弥（晩成学園支援員正職登用）	
			瀧口ともみ（晩成学園支援員正職登用）	
			小畑 咲子（晩成学園支援員正職登用）	
青山 隆志（緑陽荘支援員正職登用）				
笹木美樹子（緑陽荘支援員正職登用）				
千種 隼（らいふ支援員正職登用）				
長谷川創紀（緑陽荘支援員正職登用）				

		梶原 陵平(晩成学園支援員正職登用)
		橋本和嘉子(緑陽荘支援員正職登用)
		山内 真美(緑陽荘支援員正職登用)
		森 千里(晩成学園支援員正職登用)
		朝倉あゆ美(晩成学園支援員正職登用)
		須藤 太一(晩成学園支援員正職登用)
		佐々木康貴(晩成学園支援員正職登用)
		小山内裕香(デイセンター支援員正職登用)
		志田 卓也(晩成学園支援員正職登用)
		平野 美紀(晩成学園支援員正職登用)
		前鼻湧一郎(晩成学園支援員正職登用)
5月	1日付	西川 卓宏(晩成学園支援員)
		岩野由佳世(緑陽荘臨時調理員)
		藤川 幹子(緑陽荘パート支援員)
5月	6日付	佐藤 京子(晩成学園臨時調理員)
6月	1日付	山田 貴広(晩成学園支援員)
		菊地 摩里(晩成学園臨時支援員)
8月	1日付	今 美奈子(晩成学園支援員)
		増田 恵子(晩成学園支援員)
		石原 隆弥(晩成学園臨時調理員)
10月	14日付	豊原 章子(らいふパート世話人)
11月	1日付	杉山千恵子(デイセンター臨時支援員)
1月	1日付	坂田 硝威(デイセンター臨時支援員)
退 職		
4月	12日付	細貝 清子(晩成学園支援員)
5月	31日付	菊地 和江(晩成学園臨時調理員)
6月	30日付	朝倉あゆ美(晩成学園支援員)
9月	20日付	堀 美紀(デイセンター臨時支援員)
1月	24日付	石原 隆弥(晩成学園臨時調理員)
3月	31日付	渡部 裕子(晩成学園臨時支援員)

## 諸規程の改正

- ◎役員等報酬規程
- ◎評議員選任・解任委員会運営細則
- ◎定款
- ◎就業規則
- ◎臨時職員就業規則
- ◎給与規程
- ◎職員の定年等に関する規則